Joy風
Faculty of Informatics
Shizuoka University Newsletter
Vol.16, April 2016
http://www.inf.shizuoka.ac.jp
April2016
vol. 16
静岡大学情報学部

行事報告

Report of events

静大祭 in 浜松　一丸となって作り上げる大学祭

情報社会学科　岡田 実樹

静岡大学浜松キャンパスでは毎年 11 月に静大祭 in 浜松が２日にわたって行われます。静大祭 in 浜松は学生が模擬店を出したりパフォーマンスを行ったりするのはもちろん、アーティストさんを呼んでライブを行ったりする大学祭です (2015 年はアカペラグループの INSPi さんをお呼びしました)。また、お子さんが楽しめるゲームを製作したり２日目の最後にパフォーマンス花火を行ったりしています。これらの企画は浜松静大祭実行委員会に所属している学生が中心となって準備・運営しています。

浜松静大祭実行委員会 (2015/11/8)

実行委員は本番が始まる何ヶ月も前から企画の考案・準備を行います。委員同士で活発に、時には熱い論争をして静大祭 in 浜松の内容を固めていきます。また、実行委員は本番の２日間だけでなく、前々日から会場設営の準備に追われます。当日まで予想できなかったハプニングが起こり、臨機応変に対応しなくてはいけません。

私は大学２年生からこの委員会に所属しました。入る時期が遅かったため、いざ運営側の立場になっても分からないことばかりでした。しかし、同級生だけでなく先輩・後輩に助けてもらいながら、私の担当する企画を成功させることができました。その後に思わず涙が出てしまうくらい達成感に満ち溢れました。仲間の支えがなかったらできなかったことです。本当に嬉しかったです。静大祭 in 浜松の運営に携わることで「仲間」「協力」のもたらす力を強く感じました。来年度の静大祭 in 浜松も皆で助け合いながら作り上げたいです。

ホームカミングデー　舞台裏の苦悩と喜び

情報学研究科　修士課程　平尾 元紀

今年も静大祭 in 浜松キャンパスに合わせ、情報学部ホームカミングデーが開催されました。今年度は同窓会ワーキンググループの教員の皆様と、修士課程を中心とした学生たちで、ホームカミングデー実行委員会を結成し、新しい体制のもと活動を行いました。私はホームカミングデー実行委員会の学生代表として、ホームカミングデーの企画及び運営を約２ヶ月間行ってきました。例年よりも多くの方がホームカミングデー運営に携わったため、特に団体の方針決定、各個人の意見の取りまとめ、仕事の割り振りで苦労する点もありました。一方で、普段関わることの少ない情報社会学科の教員の皆様や他研究室の学生たちと交流することで、新たな発見や考え方を学ばせていただきました。

ホームカミングデー当日は同窓生・教員・来賓を合わせ、80 名以上の参加者がありました。参加者の笑顔を見るたびに、苦労が報われ、会を実施して本当に良かったと感じました。当日は、普段お目にかかる機会がない教員の皆様や同窓生の皆様からまたとない貴重なお話を伺う機会となりました。私は今年度で卒業予定ですが、これから後輩の学生たちが、情報学部の教員の皆様と協力し、将来的には同窓生の皆様も巻き込んで、より充実したホームカミングデーを開催されることを心から願っています。

ホームカミングデー（2015/11/7）

来年度も同窓生の皆様の参加を心待ちにしております。

シドニー大学短期留学

シドニー留学への思い

情報社会学科　久々湊 優人

オーストラリア留学は入学する前から夢でした。理由は２つあります。１つ目は、中学生の頃、オーストラリア出身の Assistant English Teacher から魅力を聞いたことと、高校まで通っていた塾の塾長が退職してオーストラリア渡航し、人を惹きつける魅力を知りたかったからです。２つ目は、大学生のうちに知らない土地で英語力を上げたかったからです。授業は午前中にシドニーやオーストラリアの地理、歴史、経済、音楽、文化、方言などを学びました。課題は基本的に授業内のみで、午後は課外学習で観光地を巡りました。住まいはシドニー大学の寮で、中国人や韓国人の留学生と交流することもでき、貴重な経験となりました。

シドニー大学での卒業式（2016/1/4）

マルチカルチャーに触れて

情報科学科　大倉 友貴

20 日間、ここで多くを学ぶんだ。冬の日本を出発すること丸１日、夏のシドニーの空を見上げた。日本にはない食べ物や景観、そして人々。多くのものに刺激を与えられた。バス一本乗った先に、中華街やイタリアン街。本場さながらの料理を食べることができる。街の雰囲気や、行き来する人々も街によって異なり、どこに行くのも大変興味深かった。本などでしか目にしたことがない、オペラハウスやブルーマウンテンズ。その不思議な建物の形状は様々な角度から眺め、その雄大な自然の存在には圧倒された。日本で机にむかって学ぶだけでは知りえない多くのことをこの留学では経験できる。今後、生きていく上での糧になるだろう。

吹奏「楽」と情報「学」

情報科学科　CS プログラム　大高 祥裕（大学院進学）

私は入学当初から、吹奏楽団に入っていました。本学の吹奏楽団は静岡と浜松の両キャンパスで活動しており、100 人前後が所属していて、精力的な活動を行っています。私はユーフォニアムという楽器を吹いており、全国大会にも出場しました。４年生になり定期演奏会で最後の１音を吹き終わったときには、目頭が熱くなったのを覚えています。長期合宿などの行事もあり、学業との両立は大変でしたが、授業を最優先としながらも、どちらも精一杯力を入れました。また、趣味として VOCALOID を使用した自主音楽制作にも取り組んでいました。

そうした音楽へのこだわりからか、現在は音声に関わる研究をしている西村研究室に所属し、話者及び発話区間の推定、それに伴うコミュニケーション分析に関して研究を進めています。

その中で、サークル活動を通して「楽しむ」ということ、それから、授業を通して「学ぶ」ということ、どちらも非常に重要だと感じました。それらは表裏一体のようで、本質的には同じ「やりきる事」が重要なのだと思います。

私は今後大学院にて２年間研究を進めていきますが、社会に出たときには、きっと大学生活で得られたものはすべて私の糧になると信じています。

地域の祭りと、その伝承者との出会い

情報社会学科　IS プログラム　西尾 美沙季（IT 企業就職）

最も思い出に残っているのは、地域の祭りを通した様々な人との関わりです。

はじまりは、所属する杉山岳弘研究室で３年次に行った地域連携プロジェクトでした。浜松市の祭りを学生自身が取材して紹介する Web ページを制作しました。これをきっかけに、卒業研究も祭りの継承に関する研究を行いました。

浜松市内には文化財級の貴重な祭りが何百とあります。私は、近年これらの祭りが直面している継承問題に関心を持ちました。継承に対する意識を変えたのは、祭りを守ろうと奮闘する伝承者との出会いです。継承のために、私たちに託すように様々なことを教えてくださいました。その熱意に動かされ、地域のために私ができることを尽くしたいと強く思いました。

以前の私は技術習得を重要視しがちでした。しかし、今回の地域との関わりは何にも代えがたい経験であり本当に多くのことを学んだ時間です。また、この活動は、一緒に活動してきた研究室のメンバーや地域の方の協力なくしてはできませんでした。関わった方々に心から感謝しています。ここで学んだこと、感じたことを、いつも心に留めていたいです。そして、地域の祭りの素晴らしさが少しでも多くの人に伝わることを願います。

出会いから学んだこと

情報社会学科　ID プログラム　竹内 美沙（市役所就職）

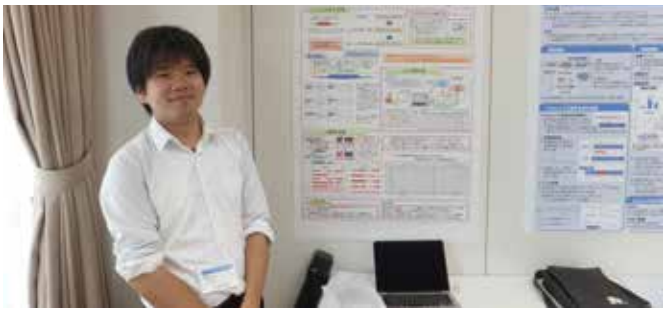
大学に入学するまでパソコンに関する知識がほとんどなかったため、静大情報学部へ入学したばかりの頃は、ちゃんと講義についていけるかすごく不安でした。しかし入学してみるとプログラミングや Web デザインなど想像していた分野だけでなく、社会調査や経済学、アニメ分析に至るまで様々な分野の講義があり、そこからやりたいものを見つけて、深く学ぶことができました。

たくさんの分野の中から私は社会調査を選び、学んできました。社会調査では様々な場所に行き、そこで貴重なお話を聞いたり、貴重な経験をさせてもらったりしました。例えば、浜松市の在住外国人に関する調査を行った際には、ブラジル人の方が開催するお祭りに参加させてもらいました。自衛隊と市民との関わりについて調査した際には、実際に浜松基地までインタビュー調査に行き、貴重なお話を聞かせてもらいました。

情報学部に入学しなければ出会うことのできなかった人たちと出会うことができ、今では静大の情報学部で４年間を過ごせて本当によかったと思っています。これから社会人になりますが、情報学部での４年間のように、人との出会いを大切にして、たくさんのことを学んでいきたいです。

私が大学院で得たもの

情報学研究科 修士課程 石浦 亮佑（製品製造企業就職）



大学院に進学するにあたり、「院進学より就職の方がよかったかな」という思いがありました。卒業研究で初めて論文やポスターを作成し、その時の苦労から不安があったのです。大学院に入学後、しばらくして初めて対外発表の機会があり、その時に研究内容に興味を持った方々から様々な質問を受けました。しかし当時の自分には質問の意図すら理解できず質疑が滞ってしまいました。そこで「自分はまだまだ勉強不足だった。研究内容の知識以外にも、関連分野、他分野の知識もなければより深い知見は得られない」と思い直し、研究内容以外の分野の知識も少しずつですが勉強を進め、その中で修士として研究を進めていく方向性を見つけることができました。知識を広く得たことで、質疑を行う際、比較的スムーズな受け答えを行えただけでなく、自身が知らなかったより高度な知識を得ることができて楽しいと思うようになりました。周囲の友人らに比べて２年間勉強しているため、社会に出て働いている友人らが時おりまぶしく感じることもありましたが、大学院で得た経験は確実に自分の力となってこの先も使い続けて行くと思います。

情報の力で災害と向き合う

行動情報学科　講師　井ノ口 宗成

昨年 12 月に着任した井ノ口宗成です。専門は、「防災と情報」です。皆さんが暮らす日本は、地震大国と呼ばれるほどに、地震の多い国です。近年では、豪雨災害や土砂災害など、災害の種類も多くなっています。いざ災害に遭遇したときには、様々な情報を頼りに減災行動が求められます。以前は「災害直後は情報がない」と言われていましたが、ICT の進んだ今は様々な媒体から大量の情報が収集・共有されており、課題は「情報がない」から「情報をどう活用するか」に変わりました。人間は一度に大量の情報を瞬時に理解することはできません。そこで重要なのが情報の集約方法や可視化方法、そして情報に対する知識を深めることです。私は、災害発生前には「効果的な災害時行動マニュアル」を策定する手法の開発、発生直後は多種の大量情報を地理空間上に統合する手法、少し時間が経ってからは被災者の生活再建支援のための情報マネジメントなど、幅広く研究をしています。災害と向き合う上で「情報工学」だけでなく「情報科学」を真剣に考えなければなりません。静岡は、近い将来、南海トラフ巨大地震に直面します。皆さんと一緒に、情報の力で災害と向き合いたいと願っています。

金融のイノベーションを体感する！

行動情報学科　准教授　遠藤 正之

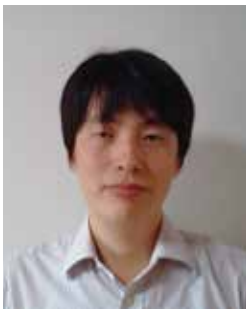
昨年 10 月に着任致しました遠藤です。大手銀行に 32 年半勤務してシステム部と利用部門の仕事を約 16 年ずつ経験しました。直近５年間はシステム部勤務の傍ら、大学院生として金融情報システムに関する研究をしておりました。

研究の中心である金融情報システムは、障害発生が大きなニュースになるような経済のインフラです。金融情報システムの経営視点でのマネジメントに対する改善提言を行っています。更に昨今、Fintech と呼ばれるイノベーションの波が、金融情報システムのトピックとなっています。それは、Finance（金融）と Technology（技術）を組み合わせた造語です。この動きもリアルタイムに追いかけて分析していきます。

授業では、銀行で情報システムの大規模開発プロジェクトや企画に携わった経験をもとに、実務に即した学びを提供したいと考えております。金融情報システムは、複雑で大規模なシステムの集合体です。したがって、金融情報システムを学ぶことで、一般的な情報システムにも適用できる汎用的な示唆を得ることができると考えています。金融以外の情報システムに関心をお持ちの学生の皆様も含め、一緒に研究や学びを深めてまいりたいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

量子情報科学～量子性を利用した画期的なソフトウェア開発

情報科学科　准教授　尾張 正樹



昨年の 10 月に着任をしました尾張と申します。現在では科学技術の発達により、集積回路は、量子力学を用いないとその動作が説明できないほど小型化されつつあります。そこで、量子力学の原理に基づいて情報科学の理論を作り直すことで、ハードウェアの量子性を利用した画期的なソフトウェア開発を目指す『量子情報科学』という新しい分野が生まれました。量子情報科学の研究により、これまでに量子コンピュータ、量子暗号、量子テレポーテーションなどといった新たな情報処理が提案されています。

量子系を用いた情報処理が、従来の情報処理より優れている理由は、『量子もつれ (エンタングルメント)』と呼ばれる量子系のみが持つ相関にあると考えられています。私はこれまで、この量子もつれと量子もつれを用いた量子情報処理を中心に研究を行ってきました。

静岡大学では、可能な限り学生自身の興味を優先して、量子力学が情報科学にもたらす新たな可能性を楽しんでいただけるような研究室運営をしていきたいと考えております。

研究室ウェブページ：
http://lab.inf.shizuoka.ac.jp/masakiowari/index.html

ユニバーサルなコミュニケーションを目指して

情報科学科　准教授　西田 昌史

昨年 10 月に着任しました西田昌史です。専門分野は音声情報処理、行動信号処理、福祉情報工学になります。音声情報処理では、インターネットやクラウド上に蓄積された大量の映像や音声などのビッグデータから、本当にほしい情報だけを瞬時に取り出せるために、音データの構造化ならびに検索技術の研究開発を行ってきました。行動信号処理では、高齢者が自らの力でいきいきとした生活が送れるように支援を行う日常生活行動のモニタリングについて研究を進めてまいりました。福祉情報工学では、視覚や聴覚に障がいをもつ方へのコミュニケーション支援について取り組んできました。

静岡大学では、学生のみなさんとともにこれまでの研究を継続すると同時に、年齢や障がいの種類を感じることがないユニバーサルなコミュニケーション支援に関する研究に力を入れていきたいと考えています。また、これまでいくつかの大学に在籍していました経験を生かして、情報学部ならびに静岡大学の発展に貢献できるように様々な活動に取り組んでいきたいと思います。

2015年度 情報学部・情報学研究科の就職・進学状況

Career choices of new graduates

情報学部キャリア支援室　溪村 和明

2015 年度の採用選考開始時期が例年よりも４ヶ月遅く、８月１日以降となり、大学生は一抹の不安を抱えたまま就職活動に船出したのではないかと思いますが、情報学部と情報学研究科では共に今年度も高い就職率を維持することができました。2016 年２月 29 日現在で、表のように学部 96.1%、研究科 98.0% の内定率となっております。未内定の学生にも３月下旬の卒業・修了まで就職活動の支援を引き続き行います。

進学率は情報科学科 40.6%、情報社会学科 8.3% です。

学科・研究科		卒業予定者数	就職希望者数	内定者数	大学院進学者数	内定率	進学率
情報学部	情報科学科	106	60	59	43	98.3%	40.6%
	情報社会学科	108	95	90	9	94.7%	8.3%
	計	214	155	149	52	96.1%	24.3%
情報学研究科		54	50	49	1	98.0%	1.9%

情報科学科・情報社会学科の主な就職先（含 大学院）

情報科学科	情報社会学科
アイシン・エィ・ダブリュ	厚生労働省
ＮＥＣ	愛知県庁
ＮＴＴドコモ	静岡県警
トヨタ自動車	アサツーディ・ケイ
ＳＣＳＫ	ＮＴＴ西日本
オムロン	ＪＡ全農
京セラ	清水銀行
ＫＤＤＩ	スズキ
ＪＲ東海	損害保険ジャパン日本興亜
スズキ	ＴＯＫＡＩホールディングス
ソフトバンク	東芝テック
大日本印刷	豊田合成
デンソー	名古屋鉄道
東芝	日本医科大学
東芝テック	日本発条
日本銀行	野村證券
日立製作所	浜松ホトニクス
富士通	日立製作所
三菱電機	北海道大学
ヤマハ　等	三井住友銀行　等

近年の学部・研究科卒業生の主な就職先は左記の通りです。情報科学科では、大手情報通信産業や製造業が多く、情報社会学科では、公務員、金融保険業、製造業などが多くなっています。情報学部では、３年次でのインターンシップや就活ガイダンス等に加え、学生との綿密な面接指導を行って、学生が希望の職につけるよう支援をしています。写真は、2015 年 10 月に行われた情報学部主催の就活応援セミナーの様子です。面接に臨む際の服装やメーク・髪型・身だしなみ等外部の方を招いて指導していただくセミナーには多くの学生が参加しました。

就活応援セミナー（2015/10/15）

平成 28(2016)年度　行事予定表

2016年

4月4日	入学式･保護者懇談会(新入生の保護者対象)
4月5日	ガイダンス(1･4年)
4月6日	ガイダンス(2･3年)
4月8日	前期授業開始
4月16･17日	新歓合宿(休暇村伊良湖)
8月1日	前期試験期間(～ 8月5日)
8月4日	TOEIC 試験(1年生)
8月8日	夏季休業(～ 9月15日)
8月9日	夏季オープンキャンパス
9月16日	集中講義(～ 9月30日)
10月3日	後期授業開始
11月12･13日	静大祭･テクノフェスタ(浜松)
11月12日	保護者懇談会･個別面談
11月19･20日	静大祭(静岡)
12月24日	集中講義(～ 12月27日)
12月28日	冬季休業(～ 1月3日)

2017年

1月4日	授業再開
2月6日	後期試験期間(～ 2月10日)
3月16日	学位記授与式･卒業祝賀会(浜松)
3月23日	学位記授与式(静岡)
3月25日	春季休業(～ 3月31日)

お問い合わせ
〒432-8011 浜松市中区城北3-5-1 静岡大学情報学部事務局
TEL:053-478-1510・1511　FAX:053-471-0249
学務窓口 pr-gakumu@inf.shizuoka.ac.jp　広報窓口 prcom@ml.inf.shizuoka.ac.jp

Joy風 vol.16 April2016

情報学部のウェブページをご覧ください。

情報学部では、保護者・受験生・社会人・一般・企業の皆様向けに学部のウェブページを公開しています。最新情報が掲載されていますので、どうぞご覧ください。

http://www.inf.shizuoka.ac.jp/